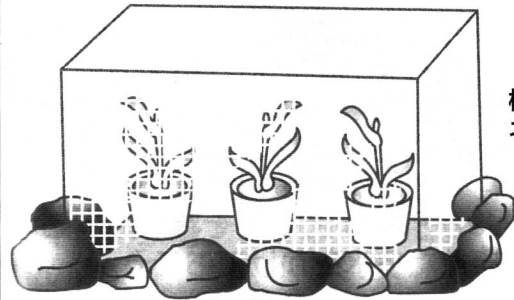


■穂が出てからのせわ・注意

とにかく、スズメには注意！面倒だけど、枠を作ってネット（園芸店で売っている）を張り、その中にイネを入れて守ろう。

それと、風にも注意！イネのクキが折れてしまったら、実りが悪くなるよ。なるべく風の当たらない所におこう。今までと同じく、水は切らさないようにね。



棒でワクを作り、ネットをかぶせる

石のおもし

■さあ、収穫だ！

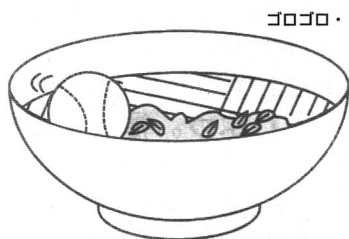
青かったモミの、9割ぐらいが黄色くなったら、いよいよ収穫だ！だいたい10月10日過ぎぐらいに収穫できるはず。

穂だけを切り取ってたばね、雨の当たらない所に2週間ほどぶら下げて乾かす。穂をとった後の葉やクキが「わら」だ。昔の人は、これで「なわ」や「わらじ」を作ったりしたんだよ。今は主に、「堆肥」の材料にしたりする。そうそう、タタミの中にもこの「ワラ」が入っているよ。

■モミすり、精米

穂からモミをはずし、すり鉢にいれ、野球のボール（軟球）で、ゴロゴロとこすると、モミがむけて「玄米（げんまい）」が出てくる。この作業を「モミすり」というんだ。

さあ、ここからが大変。玄米をビンに入れ、木の棒で気長につく。そうすると、玄米の皮がむけ、白くなっていく。この白いものが、みんなが食べている「白米」。なかなか白くならないけれど、根気が勝負！この作業を「精米（せいまい）」というんだ。あとは、食べるだけだよ！



《モミすり》

こすのではなくおしつけてころがすようにする



《精米》

玄米が少なすぎるとくだけてしまうのでこれくらいは入れるよ

■観察のポイント

地ぎわから、一番高い葉の先を引っ張って、どの位の長さがあるか（草丈）、クキは何本になっているか（5ページの図を見よう）などを、日を決めて調べよう。また、穂のでた日、バケツごとの玄米の重さも記録しておき、比べてみよう。

■おもしろ実験

栽培の方法を色々変えてみて、観察の結果を比べてみよう。

○いろいろな品種にチャレンジ

イネにはいろいろな種類（品種）がある。郡山市の近くで作られているのは、コシヒカリ、ひとめぼれ、初星、など。品種の違いを観察しよう。

○土の種類を変える

砂・たんぼの土・畑の土・花だんの土など。

○イネの数を変える

間引きをする時、残す本数を変えてみよう。

○肥料の量を変える

肥料をまったくやらない、2倍にしてみる、など。

○バケツを置く場所を変える日があたる・あたらない、夜が明るい・暗い、など。

■農家では…

農家では苗（1ヶ月くらいビニールハウスで育てた小さいイネ）を、5月中旬ごろ、機械でたんぼに植える（田植え）。みんなも、苗が手に入るなら、バケツに田植えしてもいいよ。間引きしたものをすてないで植えてもよい。

せわのしかたも違う。農家では、イネの育ちぐあいと天気を見ながら、水を多くしたり、入れなかったり、肥料をやる時期や量を変えたりする。7月の初めごろ「中干し」といって、たんぼに水を入れずからからに乾かすんだけど、これをバケツイネでやったら大変。枯れてしまうよ。

みんなは、なにをするにも「手」でやるけど、農家ではすべて機械を使ってやるんだ。肥料をまいて土に混ぜるのは「トラクター」、田植えは「田植え機」、稲刈りは「コンバイン」、モミすりは「モミすり機」。一度に広い面積でイネを作るには、機械はなくてはならないものなんだよ。